

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）

総括研究報告書

ポストミレニアム開発目標達成のための保健人材強化に関する研究

研究代表者：神尾征峰 東京大学大学院・医学系研究科教授

研究要旨

世界保健機関(WHO)と連携し、保健医療分野における IPE 教育に関する研究を行った。とりわけ途上国で IPE を推進する際の留意点を示した。この研究成果の一部は WHO ガイドラインに使われた。次にアジア太平洋地域における MDG の進捗分析を行い、MDG 指標のみによって一国の発展の進捗は知り得るものではないこと、また、国独自の発展の進捗を多彩な角度から分析し結果を示すことが、その国の今後の発展計画を作る上で有効であることを示した。最後に、アジア太平洋保健人材連盟(AAAH)との連携を強化し、同地域における保健人材研究の推進に努めた。

次にユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)に関する研究をペルーで行った。ペルーでは年々健康保険加入率が向上している。しかし、保険加入は医療サービスの質を保障するものではない。横断研究の結果、本研究の対象地域ではUHCによって保険加入率が93%までであったものの、医療従事者の就業満足度も患者満足度も3割~4割程度でしかなかった。UHCを推進するにあたり、量拡大だけでなく質の向上も同時に検討すべきことを示した。

タンザニアにおける中間レベル保健医療従事者の役割を検証するため、2種の研究を実施した。第一に、保健従事者対象の栄養教育トレーニングの効果について系統レビューを実施した。その結果、栄養教育トレーニングは、保健従事者の知識、能力及び低栄養児の健康管理全ての向上において効果があることが分かった。更に、栄養教育とトレーニングは、ケアを受ける子供たちのエネルギー摂取、食事回数及び食事の種類も有意に改善することも分かった。第二に、保健従事者対象の栄養教育トレーニングが、HIV陽性児ケアに及ぼす効果についてのランダム化比較試験を実施してきた。そしてこのトレーニングは、栄養カウンセリング、食品衛生及び食事供給行動を含む、栄養関連の一般知識及びHIV関連知識を向上させることが分かってきた。

最後に、包括マラリア対策におけるコミュニティヘルスワーカー(CHW)の役割に関する分析を行った。その結果、住民対象の教育や意識向上のための介入は、他の全ての介入を促進する効果を示した。他方、介入の組み合わせによっては(例えば殺虫剤の使用と殺虫剤処理済蚊帳)、マラリア発症率減少への効果を阻害しうるものがあることも分かった。地域に適した介入の組み合わせを検討することは、CHWに課せられた重大な任務であることが再認識された。

分担研究者

-神馬征峰 東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室 教授（世界の保健人材政策、保健人材とユニバーサルヘルスカバレッジ）

-安岡潤子 東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室 講師（世界の保健人材政策、中間レベル保健従事者・コミュニティヘルスワーカー強化）

-大塚恵子 東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室 助教（中間レベル保健従事者・コミュニティヘルスワーカー強化）

-柴沼晃 東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室 助教（世界の保健人材政策）

-ヤマモト・コハツ・タミ・ソフィア 東京大学大学院医学系研究科・国際地域保健学教室 博士課程（保健人材とユニバーサルヘルスカバレッジ）

A. 研究目的

世界規模の保健人材危機は、これまで医師、看護師、助産師の数と密度のみに着目されて語られてきた(JLI, 2004, WHO, 2006, Anand S et al, 2004, 2007)。ところが「危機」をキーワードとしたモメンタムは薄れ、上記三職種については、大学などの保健専門職教育機関における革新的な医学教育が注目をあびるようになってきている(Frenk J et al, 2010)。

教育だけではない。同時に医師、看護師、助産師以外の保健関連職種の役割もまた注目されている。とりわけ、途上国各国にいる補助医師などの中間レベル保健従事者や、多くのコミュニティヘルスワーカー(CHW)たちが、重要な保健サービス提供の担い手であることが再評価されるようになってきている。彼らは、ミレニアム開発目標(MDG)指標の達成のみならず、2015年以降のポストMDGに向けたユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)実現のための新たな保健指標(肥満や精神保健など)改善にも活躍することが期待されて

いる。

これまで我々は「国連ミレニアム開発目標達成のための保健人材強化に関する研究」を行い、カンボジアやガーナにおいて、CHWがマラリア対策や母子保健対策において重要な貢献をなしたという研究成果を示してきた(Yasuoka J et al, 2010, Naariyong S et al, 2011)。

またタンザニアにおける中間レベル保健従事者の役割に関する研究も進めてきた。これらのさまざまな職種が、ポストMDGに向けて、いかに一国内で最適に機能しえるかということは極めて重要な課題となっている。

本研究の特色は国際機関との連携による保健政策研究とフィールド研究とを組み合わせている点にある。第1の目的は、これまで連携してきたWHOやアジア保健人材連盟との協力のもとに保健人材政策研究を行うことである。第2の目的は、アジア、アフリカ、南米の保健人材不足の代表的な国のフィールド研究や文献研究を行うことによって、保健人材戦略に有用なエビデンスを示すことである。

B. 研究方法

第1は世界の保健人材政策研究である。世界規模での保健人材戦略を知り、かつ影響力を及ぼすため、WHO 本部やアジア太平洋保健人材連盟(AAAH)と協力し、保健人材に関する研究を進めた。とりわけ、途上国における多職種教育(IPE)推進のための研究を行った。IPE は e-learning と並び、革新的教育の2本柱ともいえる教育手法である。

第2の保健人材とUHCの研究に関しては、ペルーにおいて健康保険加入率の高い地域における医療従事者と患者の満足度を調査し、相互の関連について検討した。この横断研究はペルー市郊外のカヤオ地域において、21か所のプライマリヘルスケアセンターに勤務する363名の医療従事者とそこに通う1,556名の患者に対し

てなされ、両者の満足度を測定し、かつ満足度が高い場合の要因を特定した。

最後に中間医療従事者の役割に関しては、タンザニアの栄養教育についてフィールド調査を行った。また CHW の働きに関しては、世界のマラリア対策において CHW の果たす役割について分析した。

C. 各研究成果のまとめ（詳細は次章の各分担研究報告を参照）

1. 世界の保健人材政策研究

まずは WHO と連携し、保健医療分野における IPE 教育に関する研究を行った。そして、とりわけ途上国で IPE を推進する際の留意点を示した。またこの研究成果の一部は WHO ガイドラインにもりこまれた。さらにその成果を示すべく 2014 年の Prince Mahidol Award Conference (PMAC) において IPE セッションをもった。次にアジア太平洋地域における MDG の進捗分析を行い、MDG のみによって開発の進展ははかり得るものではなく、国独自の発展の進捗を多彩な角度から分析し結果を示すことが、その国の今後の発展計画を作る上で有効であることを示した。この成果は Routledge 社発行のハンドブックに掲載した。

最後にアジア太平洋保健人材連盟（AAAH）との連携を強化し、同地域における保健人材研究の推進に努めた。

2. 保健人材とユニバーサルヘルスカバレッジ

ペルーのカヤオ地域では UHC によって健康保険加入率が 93% まであがってはいたものの、医療従事者においても患者においても 3 割～4 割程度の満足度しか得られなかった。UHC を推進するにあたっては量拡大だけではなく質の向上も同時に検討していくべきであることが分かった。

3. 中間レベル保健従事者・コミュニティヘルスワーカー強化研究

タンザニアにおける中間レベル保健医療従事者の役割を検証するため、2 種の研究を実施した。第一に、中間レベル保健従事者対象の栄養教育トレーニングの効果について系統レビューを実施した。その結果、栄養教育トレーニングは、中間レベル保健従事者の知識、能力及び低栄養児の健康管理全ての向上において効果があることが分かった。更に、このトレーニングは、ケアを受ける子供たちのエネルギー摂取、食事回数及び食事の種類も有意に改善することが分かった。

第二に、中間レベル保健従事者対象の栄養教育トレーニングが、HIV 陽性児ケアに及ぼす効果についてのランダム化比較試験を実施してきた。その結果、中間レベル保健従事者対象の栄養トレーニングは、栄養カウンセリング、食品衛生及び食事供給行動（feeding practices）を含む、栄養関連の一般知識及び HIV 関連知識を向上させることが分かってきた。

最後に、包括マラリア対策における CHW の役割に関する分析を行った。その結果、住民対象の教育や意識向上のための介入は、他の全ての介入を促進する効果があることが分かった。他方、介入の組み合わせによっては（例えば殺虫剤の使用と殺虫剤処理済帳）マラリア発症率減少への効果を阻害してしまうものがあることも分かった。地域に適した介入の組み合わせを検討することは、CHW やコミュニティリーダーに課せられた重大な任務であることが再認識された。

全体のまとめ

以上大きく 4 つの研究成果が得られた。第 1 に、保健分野における革新的教育手法の一つとして、途上国においても IPE は有効でありうることを示した。第 2 に、アジアにおける MDG の進捗度を分析することにより、国別の健康指標をより詳細に分析することが必要であること

を示した。第 3 に、UHC の推進にあたっては質の確保が重要でありうることを示した。最後に中間レベル保健従事者と CHW が栄養対策やマラリア対策に大きな貢献をなしうることを示した。

